

# 平成20年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：斑点米カメムシ類（No. 1）

平成20年8月1日

鳥取県病害虫防除所

## 1 情報の内容

斑点米の原因となるカメムシ類が、水田周辺のイネ科雑草地などで平年に比べて多いため、7月23日付で病害虫発生予察注意報を発表して、防除の徹底を呼びかけている。

その後、出穂期～穂揃期を迎えた水田においても、発生量は平年に比べて多い。今後も斑点米被害の発生が懸念されるので、穂揃期から乳熟初期の防除を徹底する。

## 2 発生状況

- (1) 7月24～31日に行った、巡回調査定点における水田（出穂期～穂揃期、22地点）すくい取り調査の結果、カメムシ類の発生ほ場率は95.5%、要防除水準（捕虫網25往復50回振りすくい取り虫数が4頭以上）を超えたほ場率は72.7%であった。また、すくい取り平均成幼虫数は25.2頭で多かった。
- (2) 水田での優占種はアカスジカスミカメであり、高密度に発生しているほ場が散見される。
- (3) 気象予報（8月1日発表）によると、向こう1か月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されており、出穂期を迎える水田へのカメムシ類の飛来及びイネへの加害活動に好適な条件となっている。

## 3 防除上注意すべき事項

### (1) 水田周辺のイネ科雑草の管理

#### ア すでに出穂している地域

出穂20日前頃に水田周辺のイネ科雑草地、畦畔などの草刈りを行っていない場合は、穂揃い期から乳熟初期に草刈りを行い、草刈り後直ちに防除する。

#### イ 8月上旬に出穂期を迎える地域

出穂20日前頃に草刈りを行ったほ場では、再生したイネ科雑草が穂をつける前（水稻の出穂期頃）に再度草刈りを行うと、カメムシの密度がさらに低下する。一方、出穂20日前頃に水田周辺のイネ科雑草地、畦畔などの草刈りを行っていない場合は、穂揃い期から乳熟初期に草刈りを行い、草刈り後直ちに防除する。

#### ウ 8月中旬頃に出穂期を迎える地域

出穂20日前頃に1回目の草刈りを行う。ただし、ひとめぼれ、コシヒカリなど、8月上旬までに出穂するほ場が隣接している場合は、これらのほ場の防除直前に草刈りを行う。その後、再生したイネ科雑草が穂をつける前に再度草刈りを行うと、カメムシ類の密度がさらに低下する。

### (2) 薬剤防除

平成20年度病害虫発生予察注意報第5号（平成20年7月23日発表）を参照